

修士論文（要旨）

2018年1月

中国人上級学習者の自由会話におけるフィラーの使用
— 自己評価と母語話者評価のずれを中心に —

指導 齋藤 伸子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

216J3004

高 丹

Master's Thesis(Abstract)
January 2018

The Use of Fillers in Free Conversation by High-level Chinese Learners of Japanese:
Focusing on the Difference between Self-evaluation and Native Speaker Evaluation

Dan Gao
216J3004

Master's Program in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Nobuko Saito

目次

第1章 はじめに	1
1.1 研究背景.....	1
1.2 研究目的.....	1
第2章 先行研究	3
2.1 フィラーに関する先行研究	3
2.1.1 フィラーの定義	3
2.1.2 フィラーの機能	4
2.1.3 フィラーの使用と会話の関係	4
2.1.4 フィラーと日本語教育	4
2.1.5 フィラーと日本語学習者	5
2.2 自己評価と母語話者評価	6
2.2.1 自己評価と自己評価の欠点	6
2.2.2 母語話者評価に関する研究	6
第3章 調査概要と分析方法	7
3.1 調査方法	7
3.2 調査協力者	7
3.3 調査項目.....	8
3.3 文字化資料	9
3.4 文字化ルールの説明	9
第4章 調査の分析と結果	11
4.1.1 ペア1の自己評価と母語話者評価の分析	11
4.1.2 ペア1の自己評価と母語話者評価の分析のまとめ	15
4.2.1 ペア2の自己評価と母語話者評価の分析.....	15
4.2.2 ペア2の自己評価と母語話者評価の分析のまとめ	18
4.3.1 ペア3の自己評価と母語話者評価の分析.....	18
4.3.2 ペア3の自己評価と母語話者評価の分析のまとめ	22
4.4 フィラーの使用環境と学習経験などの自己評価	22
第5章 分析のまとめ	25
5.1 三つのペアのまとめと考察.....	25
5.2 中国人学習者の使用意識と使用状態.....	26
5.3 母語話者評価の特徴.....	26
第6章 総合的な考察	28
6.1 フィラーと使用場面.....	28
6.2 フィラーの機能.....	29
6.3 フィラーと母語の影響.....	30
6.4 フィラーと教科書.....	31
第7章 まとめと今後の課題	33
7.1 まとめ.....	33
7.2 今後の課題.....	34

参考文献
資料

日中間の経済的・人的交流が深まるとともに、多くの中国人が日本語に興味を持ち、来日するが、日本人母語話者と交流するとき、様々な問題が起こりやすい。文化の違いや中国人日本語学習者自身の日本語が上手ではないなどの原因で、多くの中国人学習者は話す内容が通じず、会話が不自然になるなどの体験をする。同じく中国人学習者である稿者は自分の会話の録音データを初めて分析したとき、フィラーの使い方、入れるタイミングに違和感があると感じ、フィラーを日本人母語話者より使いすぎていることに気が付いた。そこで、本研究では、上級中国人日本語学習者を対象として、日本語会話の録音資料を基に、上級中国人学習者のフィラーの使用状況を分析、考察する。それにより、彼らにフィラーの使用法いわば話し言葉のテクニックについて提案することができるのではないかと考える。さらに、日本語教育現場で、上級中国人日本語学習者にどのようにフィラーを指導すべきかについても知見が得られるのではないかと考える。

本調査は二つの部分に分かれている。まず上級中国人日本語学習者が使ったフィラーの状況を把握するために、日本語母語話者3名と上級中国人日本語話者3名を組み合わせ、友達同士の1対1のペア3組を作り、最低30分の会話をしてもらって、そのデータを収集した。音声データの収集後、一部分の音声データを文字化し、文字化のデータからフィラーを抽出して、分析対象とした。まず、3名の上級中国人日本語学習者の会話データに現れたフィラーの使用数、出現位置などを合計した。次に、録音データの音声を聞いてもらいながら、上級中国人日本語学習者にインタビューし、フィラーの使用意識などについて、10つの質問に答えてもらった。最後に、日本人母語話者にも7つの質問に答えてもらい、上級中国人日本語学習者のフィラーの使用状況についてインタビューした。

調査の結果としては、質問①使用意識、②フィラーの自然さと⑤フィラーの機能の3つの項目は、すべてのペアで答えが一致しなかった。それに対して、質問③使用目的はすべてのペアで評価が一致した。

使用場面によって、使用意識の変化があることがわかった。上級中国人日本語学習者の場合、インタビューの内容から見ると、話し相手からの影響が一番大きかったと考えられる。日本人母語話者と違って、上級中国人学習者は自分の日本語能力が非常に気になっていることがわかった。つまり、話し手である上級中国人日本語学習者の自尊心の影響もかなりあると考えられる。インタビューした3人とも、目上の人を配慮し、自分も相手にいい印象を与えたい場合、また正式場面のとき、フィラーの使用回数に注意を払う傾向が見られる。

データに基づいて、CF1、CF2とCF3は三人とも「えーと」「あのう」「なんか」「うん」という4種類のフィラーを使ったことがわかった。さらに、「えーと」「あのう」の機能について三人の意見は同じであり、「うん」「なんか」は三人の意見がそれぞれ異なった。

フィラーの機能についてみると、三人は実際使用したフィラーの機能を先行研究にあった機能より少なく自覚しており、一つのフィラーが一つの機能しか持っていないことがわかった。三人のうち二人が、母語である中国語の影響で、日本語のフィラーに日本語とは異なる機能を加えた。

中国語のフィラーの影響を受けて、CF1、CF2とCF3の三人の話内容から、三人とも無意識的に中国語のフィラーを使う傾向があることがわかった。三人とも「うん」と「en(嗯)」

を混ぜて使ったことから、中国語フィラーと似ている日本語のフィラー「うん」については、母語の影響が大きいことがわかる。

以上の分析と考察の結果から、コミュニケーション上の問題を解決し、会話をスムーズに進め、日本語母語話者と円滑な人間関係を構築することに対して、フィラーが大きな役割を果たしていることがわかった。そのため、フィラーを日本語学習者に意識的に指導していく必要があると考えられる。本研究で明らかになった上級中国人日本語学習者のフィラーの使用状況とフィラーに対する使用意識の結果が、日本語教育現場におけるフィラーの指導への示唆になれば幸いである。

参考文献

- 石崎晶子 (1999) 「学習者の言語行動に対する母語話者の評価—主観的評価と客観的評価の関係—」『第二言語としての日本語の習得研究』 3, pp. 19-35
- 大工原勇人 (2008) 「指示詞系フィラー『あの (一)』・『その (一)』の用法」, 『日本語教育』 138, pp. 80-89
- Okamura, Akiko (1995) 「Teachers' and nonteachers' perception of elementary learners spoken Japanese」『The Modern Language Journal』 79, pp.29-40
- 葛欣燕 (2015) 「機能に基づく日本語フィラーの使用実態—中国人日本語学習者と日本語母語話者との対照に着目して—」『地球社会統合科学研究』 2, pp. 35-44
- コーリヤ佐貫葉子 (2003) 「夏期留学プログラム参加者のフィラー使用と習得に関する—考察」, Journal CAJLE, Vol. 5
- 定延利之/田窪行則 (1995) 「談話における心的操作モニター機構—心的操作標識「ええと」と「あの (一)」—」『言語研究』 108, pp. 74-93
- 庄司恵雄 (1998) 「流暢とは何か 考察その1: 反応速度について『反応速度が遅い』と判定される発話の特質」『岡山国際留学生センター紀要』 5, pp. 17-33
- 塩沢孝子 (1979) 「日本語の Hesitation に関する—考察」F. C. パン編『社会言語学シリーズ No. 2 ことばの諸相』文化評論出版, pp.115-166
- 田中敏 (1993) 「休止の意味論」『月刊言語』 22, (8), pp. 22-27
- 遠山仁美/松原茂樹 (2007) 「英日同時通訳者発話におけるフィラーの出現と聴きやすさとの関係」『通訳研究』 7, pp. 39-49
- 中島悦子 (2011) 『自然談話の文化—疑問表現・応答詞・あいづち・フィラー・無助詞—』おうふう出版
- 野村美穂子 (1996) 「大学の講義における文科系の日本語と理科系の日本語: 「フィラー」に注目して」『教育研究所紀要』 5, pp. 91-99 文教大学
- 針生悦子編 (2006) 『言語心理学』朝倉書店出版
- 本間妙 (2012) 「実質の意味を持つフィラーの談話的研究—特定のインタラクションに表出する「ちょっと」「なんか」「やっぱり」」 pp. 1-201 中部大学
- 堀口純子 (1995) 「話しことばに迫る」林四郎編『応用言語学講座第1巻 日本語の教育』, pp. 250-268, 明治書店
- 山内博之 (2011) 「話すための日本語教育文法」『コミュニケーションのための日本教育文法』 pp. 174-165 くろしお出版
- 山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版
- 安彦忠彦 (1987) 『自己評価: 「自己教育論」を超えて』図書文化社
- 渡部倫子 (2003) 「日本語口頭運用能力の評価基準—評価者による相違—」『日本教科教育学会誌』 4pp. 11-17
- 渡部倫子 (2005) 「プラス評価・マイナス評価されやすい発話の要素とは—日本語学習者に対する日本語母語話者の評価—」『教育学研究ジャーナル』 1, pp. 77-81